

BBL NEWS

Bilingual Business Leader Program



立教大学 経営学部 国際経営学科
Department of Global Business, College of Business, Rikkyo University

第14巻第1号(通算38号) 2020年10月31日発行 <http://cob.rikkyo.ac.jp/>

経営学部生が「IIBC ENGLISH CAFÉ オンライン講演会」にパネリストとして出演

2020年9月26日、TOEIC Programの実施・運営団体である一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)がオンラインで開催した講演会(パネルディスカッション)に、経営学部から2名の学生(国際経営学科3年次生草野紫織さんと岩間湧大さん)がパネリストとして登壇しました。「TOEIC L&Rスコアを伸ばした現役大学生に聞く～英語学習法とモチベーション維持の秘訣～」と題して開催されたこのイベントで、2人は他大学の学生2名とともに、TOEIC L&R Tests スコアアップのヒントやモチベーションの保ち方などについて話しました。



2人が所属する国際経営学科では、入学からの2年間にBBLプログラムの授業を通して英語をみっちり鍛え上げます。BBLの授業は「経営学を英語で学ぶ」ための基礎作りを主目的としており、3・4年次までに、海外の大学の講義やコースワークに支障なく参加できるだけの英語力を身に付けられるようデザインされています。そのため、海外の大学レベルに匹敵する多量のリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをこなしていきます。入学したての頃は膨大な勉強量が大変に思う学生もいますが、EAPの授業に真剣に打ち込んでいくだけで、英語力は自然と鍛え上げられていきます。

今回パネリストとして登壇してくれた草野さんと岩間さんも、自分の置かれた環境を最大限に生かし、授業への惜しみない努力を続け実際に成果を出してきました。それだけではなく、生活の中でも意識して英語に触れる機会を取り入れ、自分なりに工夫をしながら実践的な英語学習にも取り組んでいます。今回のパネルディスカッションでは、そんな彼らの前向きな姿勢が伝わり、英語上達に近道はなく、コツコツと努力を重ねることの重要性が視聴者の皆様にも伝わったのではないかと思います。

国際経営学科3年次生 草野 紫織さん(新潟県立燕高等学校卒)のコメント



今回のイベントに登壇し、英語力を伸ばすコツや日々の勉強方法を話すことで、自分の今までの英語学習を振り返り今後に繋げていく良い機会になりました。大学に入ってからクラスメートの英語レベルの高さに必死で食いつく日々でしたが、そんな中でもEAPや他の英語による授業、TOEIC L&Rの結果を通して自分の成長を感じるとともに、まだまだ足りない部分を認識することもでき、また次の学期も頑張ろうと思います。次の目標は、CLUB 900 (TOEIC L&R 900点以上)のメンバーになることと海外の大学で留学生や現地の学生と対等に勉強ができるようになることです。私には海外で長期間生活した経験がありません。それでも、英語は毎日の積み重ねだと考えています。諦めずに日々の課題や授業に真摯に取り組み、英語力を伸ばすだけでなく、国際社会でリーダーシップを発揮できるビジネスパーソンを目指して知識を自分のものにしていきたいです。

国際経営学科3年次生 岩間 湧大さん(神奈川県立海老名高等学校卒)のコメント



“Bloom where God has planted you”という言葉があります。訳すれば、「置かれたところで咲きなさい」。つまり、自分が今いる環境で最大限の成長をせよ、という言葉として僕は理解しています。

今回 IIBC English Café に登壇し、改めて立教・国際経営という場所がいかに自分を成長させてくれたかを、身にしみて感じました。2年前の春、英語クラスや Overseas EAP で自分を取り囲んでいたのは、帰国子女やバイリンガルと呼ばれる同級生たち。かたや自分は県立高校出身の純粋な日本人。おどおどしながら教室の扉を開きながらも、「彼、彼女達から学べることは全て吸収しよう」と密かに決心したのをよく覚えています。その志のもと、人生で初めての留学経験と、EAP/ESP で下学上達していることに、やはり BBL プログラムへの感謝の念が尽きません。

あまつさえ、僕が英語に本気で取り組む環境を与えてくれた、中学・高校の英語の先生達にも感謝したいと思います。今、この場所で「bloom = 開花できていること」は間違いなく恩師達のおかげであり、このような形で恩返しできて良かったと感じています。ありがとうございます。

Ingenta 社と立教経営の連携授業が開講

Business Project (BP) は、3・4年次生を対象とした留学生と共に受講する英語で開講される授業で、協力企業から提示されるビジネス課題に多国籍チームを結成して取り組み、企画から提案までを行います。これにより実践的なグローバルビジネスの疑似体験を積み、専門性に加え、多様な人々と協働する力を養います。春学期はオンラインでの開講となりましたが、受講生の一人、国際経営学科3年次生の岡野源太郎さん（東京都立三田高等学校卒）に授業の様子を報告してもらいました。

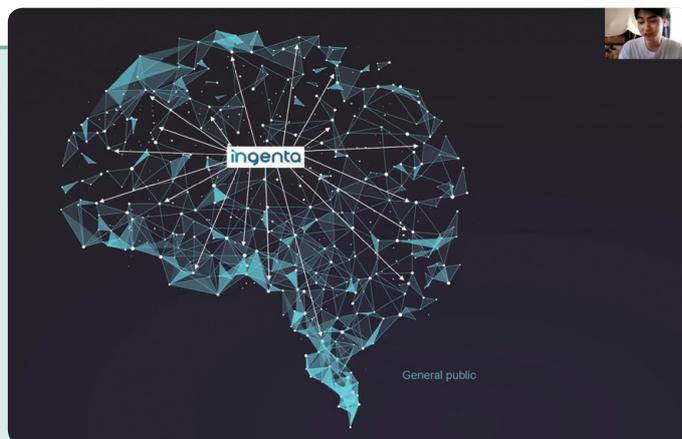
国際経営学科 3年次生
岡野 源太郎さん
(東京都立三田高等学校卒)

2020年度春学期開講のBBL科目 Business Project を履修した学生は、Ingenta という AI のベンチャー企業に向けてビジネスの提案を行いました。この

度ご協力くださった Ingenta 社様は東京に本社を構え、シリコンバレーと台湾に支社を持つ現在注目されている企業です。主なサービスはビジネス向けではあるものの、環境、社会、人類の未来のための AI の技術開発を目指しています。

今回、私たち学生に課せられたプロジェクトは、「Ingenta のブランディング戦略を提案せよ」ということでした。そこで私たちはまず手始めに、AI が大衆文化でどのように描かれているか、AI がビジネスにおいてどのように認識されているか、他の AI 企業はどのようなブランドストーリーを描いているかを調べました。これらを背景に、創造的な視点を持ちながら、Ingenta とそのブランドストーリーを世界に向けて紹介する案を考え出しました。

今学期の授業には、国際経営学科の学生、他学部（社会学部、文学部）の学生、経営学専攻の留学生から構成され、3人1グループの2チームに分けられました。経営学部生だけや日本人だけで行うグループワークと比べて、言語の障壁、国民性の違い、経験の違いなどがあり、思うようにいかないことが多々ありました。しかしながら、この経験は自分にとってとてもためになるものだと感じました。多様性に富んだグループは新しい視点をもたらし、お互いに刺激を受けるといい一面に気づくことができました。今学期は Zoom によって授業が行われたため、いつでもミーティングができ



● Ingenta 社にプレゼンする岡野さん

るようになり、その点はとても便利でした。しかし、対面のミーティングと比べて自分の主張を伝えることが難しいと感じる時もありました。

全体的にこの授業は難易度が高く大変である分、やりがいを感じられる非常に価値のある授業だと思いました。全ての授業はもちろんのこと、学生間のミーティングも第2言語である英語で行われました。そのため、ある程度の英語力が求められるものの、英語力を維持・向上させるためにも良い機会となりました。また、通常の授業とは違い、実際の企業と連携し取り組む実践的な授業であるため、真剣さと責任が必要ですが、その分、学びも豊かで奥深かったです。自分がこれまで培ってきた英語力やビジネススキルを試したい学生には強く勧めたい授業です。

EAP 2 の授業で異文化コミュニケーションの専門家による特別講義をオンラインで実施

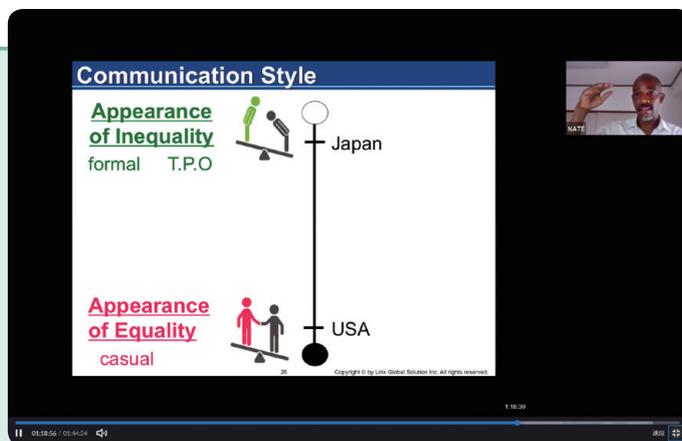
2年次春学期に展開される EAP 2 の授業（国際経営学科生全員と希望する経営学科生が履修）では、学習テーマに関連した学識・実務経験を持つ方をゲストスピーカーとして招聘し、英語でご講義いただいています。今年はオンラインでの開催となったため、学生は自宅などで受講しましたが、チャット機能をフルに用いてインタラクティブに展開していただきました。卒業後に国際ビジネスシーンで活躍することが期待されている経営学部生にとって、ビジネスの最前線で活躍されているゲストスピーカーのお話を聞けることはとても貴重な機会となりました。

国際経営学科 2年次生
右田 時大さん
(横浜市立金沢高等学校卒)

2020年6月26日、BBLプログラム 2年次生対象科目 EAP 2 (English for Academic Purposes 2) において、リンクグローバル・ソリューション・ジャパン社のコンサルタント Nathan DeWitt 氏をお招きし、ゲストレクチャーを実施しました。

ビジネスの国際化において必要な考え方を、ご本人のエピソードや喩えを用いて、質問を投げかけつつ、わかりやすく説明してくださいました。文化の異なる人々が同じ職場で働くために、また日本人が海外の職場で働くために、「上司と部下の距離感」「会議への取り組み方」「意思決定のスピード」など、具体的な文化の違いについて理解を深めることの重要性や、それぞれの要素についてご説明してくださいました。また国際的な職場ではその違いを知り、歩み寄るためのコミュニケーションの重要性についてもお話していただきました。

実際に言語と文化も違う職場で働き、国際化の難しさや重要性を実感していた Nathan 氏だからこそ語ることができる内容が多く、国際経営

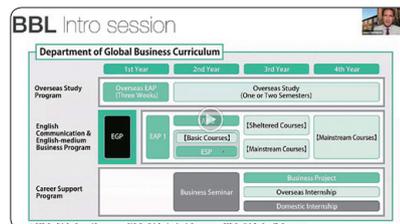


● スライドを共有しながらインタラクティブにレクチャーして下さる DeWitt 氏

やグローバルリーダーシップについて教科書で学ぶことができない実践的な知識を得ることができ、非常に有意義な時間でした。

バイリンガル・ビジネスリーダー・プログラム (BBL) 相談会を Zoom で開催

経営学部には入学から卒業までの4年間を通じてグローバルな学びの環境が整っていますが、その最初のプログラムが1年次生を対象とした正課、Overseas EAP (夏期短期留学プログラム)*です。通常は国際経営学科1年次生のほぼ全員が春学期に履修し、夏休みの3週間を海外の提携校で過ごすのですが、今年は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響によりやむなく中止となりました。そこでBBL事務局では、WEB相談会を数回開催し、1年次生が不安に思っていること、今後の英語学習についての質問や疑問などを、直接先輩SA (スチューデントアシスタント) やBBLプログラムの先生方に質問できる場を設けました。



●第1回目の相談会

第1回目の相談会では、司会進行役を国際経営学科3年次生の伊藤万佑子さんが担い、BBLプログラム全般に関する説明をBBL



●第2回目の相談会

副査のトンプソン准教授がスライドを使って行いました。その後、1年次生は4~5名ずつの小グループに分かれ、各グループに先輩SA1名が付き、1年生からの質問に答えました。英語上達の方法や、留学や海外インターンシップの準備方法、履修登録についてなど、質問内容は多岐にわたりましたが、先輩SAが一つ一つ詳しく答えてくれました。後日、相談会に参加できなかった学生のためには、動画と相談会で出た質問・回答集をメール配信しました。

第2回目の相談会では、国際経営学科生全員と履修を希望する経営学科生が秋学期から受講するEAP1の授業内容や英語学習方法のヒントなどを、EAP1のコースリーダーであるセルベ先生と国際経営学科3年次生の岩間湧大さんが英語で説明したのち、1年生からの質問を受けました。

* Overseas EAP (短期留学プログラム)

単なる語学留学ではなく、現地の企業に対してビジネスプランを英語で提案することが課題となっている立教大学経営学部のためだけに独自に開発されたプログラム。参加する学生たちは、リサーチの一環として、現地企業の視察や、経営者および社員へのインタビューなども行います。同時に学生たちは現地でのSA (スチューデントアシスタント) や現地の人々と交流し、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を向上させます。

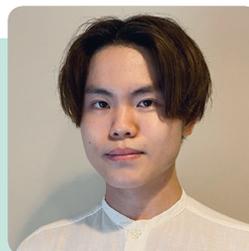
EAP 1: CA (コース・アシスタント) の意気込み

1年次秋学期に開講されるEAP1(English for Academic Purposes 1)は、今年度、授業のスタイルが大きく変わります。春学期に開講予定だったOverseas EAP (短期留学プログラム) がコロナ禍で残念ながら不開講となったため、これまでOverseas EAPで採用していたグループプロジェクトをEAP1に組み込むことになりました。

Overseas EAPを経験していない1年次生に対してより効果的なサポート提供が必要となるため、今年SA(Student Assistant)とCA(Course Assistant)を務める先輩たちの役割は、これまで以上に重要なものとなります。SAには1年生が取り組むグループプロジェクトのサポーター役を担ってもらいますが、CAにはSAとも協働しながら学修リソース (例: 文献の正しい引用方法など) の作成やその補助業務を行ってもらいます。

この挑戦し甲斐のある仕事を買って出てくれた先輩たちは全部で16名。そのうちこの度CAを務めることになった国際経営学科2年次生の栗原さんに仕事への意気込みを聞きました。

経営学部国際経営学科2年次生 栗原 啓輔さん (立教新座高等学校卒) のコメント



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度のEAP1の授業は今までにはない形へと生まれ変わろうとしています。Overseas EAP (夏季短期留学) と並びに私がSAとして関わるはずだった留学事前研修が中止となったため、秋学期のEAP1が新生にとって初めてのBBLの授業ということになります。私がCAとして全く新しいEAP1づくりに参加することを決めたのは、今まで以上に実用的で価値のあるカリキュラムに基づいた授業を、春学期に同じ教室で共に学ぶはずであった新生に届けたいと思いがあったからです。

しかし、教材を実際に作り上げていく過程には様々な困難があります。ただでさえ学ぶ内容の多いEAP1に春学期の内容を組み込むということになると、既存のカリキュラムを分解し、受講生にとって本当に必要な内容は何かを考え、組み直す必要があります。講師陣、私たちCA陣にとっても葛藤、挑戦の毎日です。ただそれと同時に、先生よりも受講生に近い目線から教材づくりに積極的に参加することができるというCAならではのやりがいを日々感じております。これからも、私たちが提供するカリキュラムが受講生の成長に繋がると信じ、運営陣一丸となり日々改良を続けていきたいと考えています。

2021年度に1年次生のカリキュラムを変更します

立教大学経営学部国際経営学科は、2021年度よりBBLの1年次のカリキュラムを一部変更します。

1年次春学期に自動登録科目としてIntroduction to BBL (BBL 0) を新規開講し、国際経営学科1年次生全員に履修していただきます。そして、これまでOverseas EAPを国際経営学科1年次の夏に原則全員参加の自動登録科目として実施していましたが、2021年度からは秋学期に選択科目として開講することになります。

1年次秋学期にはこれまで通りEAP1 (English for Academic Purposes 1) を開講するとともに、前述のとおり、希望者を対象にOverseas EAP (学内での事前研修+2月に海外の提携大学で3週間) を選択科目として実施いたします。

(但し、新型コロナウイルス感染症などの状況によっては、Overseas EAPを開講しないこともありえます。ご承知おきください。)

2021年度国際経営学科1年次開講 BBL 科目		
春学期		
Introduction to BBL (BBL 0)	(週1コマ)	自動登録科目
秋学期		
EAP 1	(週1コマ)	自動登録科目
Overseas EAP	事前研修 (週1コマ) + 短期海外留学 (2月に3週間)	選択科目

第 22 回 CLUB 900 表彰式をオンラインで開催

2020年7月30日、第22回 CLUB 900 表彰式をオンライン方式で開催しました。今回表彰の対象となったのは、6月に学部で実施した TOEIC® L&R オンラインテストと、過去6か月に個人で TOEIC® L&R テストを受験し 900 点以上を取得した学生 39 名です。そのほかに、受験者の中で過去の最低点と比較して飛躍的にスコアが伸びた学生 3 名についても、その健闘を讃えて表彰いたしました。

ゲストとしてご臨席くださった岡本国際経営学科長と TOEIC テストの実施団体である（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会様よりお祝辞をいただいたあと、受賞者をスライドショーを使って紹介しました。最後に学生を代表して国際経営学科 4 年次生の星崎伶奈さん（共愛学園高等学校卒）が英語でスピーチをし、受賞の喜びと教授・スタッフ陣に向けて謝辞を述べました。

今回の受賞を励みに、さらなる高みを目指して切磋琢磨し、グローバル社会で活躍できる人材に育ってほしいと思います。



● CLUB 900 表彰式の様子

CLUB 900 表彰者名簿 (2020年7月30日)

国際経営 1 年	国際経営 2 年	国際経営 3 年	国際経営 4 年
山田 ことみ	本澤 海翔	松村 凧紗	星崎 伶奈
小林 詠琳	花田 碧未	喜多 さゆり	龍橋 拓海
仙波 来唯	タン エンハン	杉山 諒太	
安田 詩温	佐藤 優佳	岩間 湧大	経営 4 年
畠山 ゆり	前野 翔太	武藤 日花莉	豊永 創希
木村 太郎	平松 兵梧	伊藤 万佑子	
鳥江 康太	志水 千紜		
土田 妃愛乃	萩原 一晴	経営 3 年	
和田 史央	加藤 萌	柳澤 亜里沙	
白岩 花海	オソビン	石原 杏葉	
	成田 征暉		
	植月 千夏		
	白井 さくら		
	二宮 海渡		
	経営 2 年		
	矢野 謙士		
	藤田 里佳		
	吉村 匡裕		
	工藤 雄尊		

Most Improved Award 受賞

CLUB 900 表彰式では、惜しくも 900 点には届かなかったものの、ここ数年間に飛躍的に点数が上がった学生にも、その努力と成果を讃えて Most Improved Award を授与いたしました。

今回受賞した国際経営学科 4 年次生の増田さんと 3 年次生の前崎さん（ともに立教新座高等学校卒）、そして経営学科 3 年次生の紅林さん（静岡市立高等学校卒）に勉強法などについて伺いました。

国際経営学科 4 年次生 増田 虎宇介さん (立教新座高等学校卒)

率直に驚きです。私は国際経営学科生にも関わらず、英語が大嫌いでした。入学直後の英語のクラスは最下層でした。しかし、様々な人と交流したいという理由で留学を決意しました。部活・ゼミ・バイトをやりながら、BBL の授業準備や隙間時間に英語の勉強をしました。英語が急に伸びたと感じたのは留学に行ってからです。2019年8月～3月まで立教大学の派遣留学プログラムでアメリカのセントラルオクラホマ大

学に留学したのですが、そこで間違いを恐れず、恥じず、たくさんの人とコミュニケーションを積極的に図りました。自ら外国の人たちと話すという機会を作ることが、英語上達への近道です。受賞した理由だと思います。英語だけに限らず、積極的に自分で行動しないと新しい自分の側面に気づけないのかなと思います!



国際経営学科 3 年次生 前崎 良太さん (立教新座高等学校卒)

大学 1 年の頃から英語を学習してきた成果が、Most Improved Award の受賞という結果に現れたことをとても嬉しく思います。入学当初は、周りの仲間たちの英語力に圧倒され、怖気づいてしまうこともあり。そんな中でも、BBL の先生方の熱い指導や、同じ仲間たちが成長していく様を見て、英語の勉強に対するモチベーションを上

げることができました。毎日英語に触れるよう習慣をつけ、ドラマや映画もなるべく英語で観ることを心掛けました。このような日々の努力の積み重ねが、結果に結びついたと考えています。今後もさらなる高みを目指して、グローバルに活躍できる人材へと成長していきたいです。



経営学科 3 年次生 紅林 大稀さん (静岡市立高等学校卒)

大学入学直後に初めて TOEIC を受験して自分の英語力の低さを痛感した時、必ずこの賞を取ると誓っていたため、この度受賞できたことを大変嬉しく思います。元々英語は苦手でしたが、模試を使った学習を続けたことで徐々にスコアを上げることができました。模試を使ってテクニックや自分に合った時間配分、2 時間で問題を解く集中力を手に入れたことがスコア上昇の要因だったと思います。

今回の受賞は自分 1 人の努力だけではなく、学習する環境を与えてくれた両親や英語面接を行ってくださった BBL の教授、一緒に学習を進めてくれた友人の支えがあったからこそ成し遂げることができました。今後も支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れずに学習を続けていきたいと考えています。

